

チグリスとユーフラテス

誰もいない宙港。

ゆるやかに、ゆるやかに、蛍達が飛んでいる。

——遠い未来。惑星ナインの人類は滅びようとしていた。地球からの移住を遂げ一時は繁栄を見せたナイン社会だったが、原因不明の人口減少により衰退の道を辿ることとなったのだ。やがて「最後の子供」として生まれてしまったルナは、永遠に子供としてふるまうことを強いられたまま、滅びゆく世界にたった一人残される。

『チグリスとユーフラテス』は、そんな世界の中でコールドスリープから目覚めた4人の女性が順に語り手となる、連作短編小説だ。ナイン社会の終末期、繁栄期、開拓期、そして移民初期と、惑星ナインの歴史を遡るようにそれぞれの生きた時代を語る彼女たち。彼女たちにナインの末路を見せつけ、そこにつながる彼女たちの人生を否定してやろうと、ルナは彼女たちをコールドスリープから起こしたのだ。けれど、彼女たちとの関わりの中でルナは自分の人生の意味と向き合い、答えを見出していくことになる。

「人生の意味」とは、いったい何だろうか？ 繁殖、生存、芸術、仕事……。それらに捧げ、それぞれの時代を精一杯生きた彼女たちの人生も、「人類の滅亡」という事実の前には、全くの無意味なのではないか。それなら、この人生は何だったのか？ この現実、あまりにも残酷な結論を迫ってくる。でも、もしあなたが人生に思い悩んでいるのなら、この本を開いてみてほしい。この世界に引き込まれ、彼女たちと一緒に辿りついた結論は、きっとあなたの助けになってくれるはずだ。

この星の結末はもう決まっている。でも、本当に虚しい結末だろうか？ 滅びに向かうだけの日々の中、ルナと彼女たちの交流は。ルナが最後に辿りついた答えは。それらは確かに、あたたかなもののはずだ。誰もいなくなったこの星にルナが残した哀しくも優しい情景を、あなたに見届けてほしい。そこにあるのは、きっと絶望じゃない。

(海月)

『チグリスとユーフラテス』

著者 新井素子
出版社 集英社
価格(税込) <上>810円
<下>702円

